

## 狛江の遺跡散歩

18.7.8

齋木 敏夫

狛江駅 10 時に 20 名が集合した。北口を出ると左側にこんもりと繁った森がある。狛江弁財天池緑地保全地区の一角で以前は泉龍寺の境内地であった。中に入ると涼しさが感じられる。狛江には多くの古墳が多くあったが現在は住宅地化が進み、僅かに 18 基しかその姿を見ることができない。

### 狛江弁財天池

この地からは縄文時代以降の住居跡が多く発見され、人々の生活の痕跡が色濃く見られたようだ。旧石器時代の落とし穴の遺構が発見されているが水を求めに来た動物を捕まえるためのもので富士の裾野、静岡県愛鷹山遺跡や、箱根山山麓の初音ヶ原遺跡などにも見られる。旧石器時代の人々が考えたものであろう。弁財天池は今も湧水で水が澄んでいる。六郷用水が出来るまでは下流域の田を潤っていたようだ。この池は地名の由来となっており、付近の町名は元和泉となっている。畔には弁財天を祀る祠があり、聖観音立像が建っている。

### 雲松山泉龍寺

765 年良弁僧都の創建と伝える古刹。法相宗、華嚴宗、兼学の寺であったが戦国時代に衰退したが戦国末期に曹洞宗寺院となり、曹洞禅の修行道場として復興したようだ。旧境内地は弁財天池から北方の経塚古墳も含み、広大であったようだ。家康の入府時にこの地に知行地を与えられた石ヶ谷氏の菩提寺で彦根井伊家の墓所もある。山門(市指定)は 1859 年に再建、切妻造、本瓦葺、四脚門だ。参道は一直線で鐘楼門(市指定)は入母屋造、1 階が吹き抜けの参道で、2 階は周囲に朱色の勾欄が付き、梵鐘が釣り下がっている。1706 年再建の本堂(市指定)にお参りをした。境内の一角に 11 基の石塔が並んでいる。左端から二番目は猿を仏様のお姿にした庚申塔で一猿庚申塔といわれている。1,686 年の造立、庚申塔は三猿が一般的だが猿を仏様のお姿にした庚申塔は珍しいと思った。

境内を出て元和泉町の中を南西方向に歩き、狭い路地に入った。

### 亀塚古墳

数段の石段を上ると「狛江亀塚」と刻まれた大きな石碑がある。徳富蘇峰が揮毫したようだ。帆立貝式古墳と云われる 5 世紀後半～6 世紀初頭に築造された古墳だが現在は開発工事によって墳丘のほとんどが削られ、周囲を住宅に囲まれ、僅かに前方部しか残されていない。帆立貝式古墳は円丘に小さな方形の張り出しをつけて全体の平面形が帆立貝形になる古墳の総称だ。発掘された銅鏡は中国の後漢時代(25～220 年)につくられた「神人歌舞画像鏡」でこれと同じ鋳型で作られたものが大阪府の古墳から 2 面見つかっている。この古墳に埋葬された人物が畿内王権と深く結びついていた豪族であったと考えられているようだ。

北西に向かって住宅街をしばらく歩き、田中橋の交差点を過ぎ、左側に民家園の看板を見て暫く歩き、右に曲がるとフェンスに囲まれて木立がある。

### 兜(甲)塚古墳(都史跡)

この古墳は形態がよく残されており、管理が行き届いているように思われる。出土した土師器や円筒埴輪から 6 世紀前半の築造で被葬者は亀塚古墳の次の世代と思われる。上に上ると円墳のように見える。しかし帆立貝式古墳の可能性が指摘されている。

墳丘部の調査はいまだ出来ていないようだ。

## 伊豆美神社

府中の大国魂神社（六所宮）の分霊を祀り、「六所宮」の名で奉斎されたのが始まり。1550年多摩川の洪水のため、現在の境内に移され、明治になって社号を地名の「和泉」に因んで伊豆美神社と改称した。境内はケヤキ、イチョウ、クスノキ等の大木が生い茂る大きな森に包まれている。

## 開港記念碑（故正四位上左近衛中将井伊直弼公敬慕碑）（市指定）

伊豆美神社境内の一角にある。井伊直弼の功績と井伊家に儒者として仕えた小町雄八の遺徳を顕彰するため、明治34年に建立された高さ約4mの石碑だ。和泉村の一部が井伊家の所領であったことと小町雄八が和泉村の出身だったことなどにより、築造されたようだ。

## 玉川碑跡（都指定旧跡）

伊豆美神社の西方約400mの神社所有地（中和泉4）にある。元の玉川碑は1805年に元土浦藩士・平井薫威によって建立された。『万葉集』の東歌の歌碑で碑文は松平定信の筆であったが1892年の洪水で流失した。1922年定信を敬慕する三重県の篤志家・羽場順承が碑の拓本を入手して再建を計画、渋沢栄一に協力を求め、1924年に除幕式が行われた。『万葉集』巻14の東歌の一首「多摩川にさらす手作りさらさらに何そこの児のここだ愛しき」が刻まれている。イラクサ科の多年草苧麻（チョマ、カラム）で織った布を若い女性が多摩川の水で晒していたのだろうと想像した。

「この児」をイメージして彫られた乙女像が駅前にある。

## 水神社

多摩川のそばにあり、伊豆美神社の旧名六所宮がこの地にあり、同社の境外末社となっている。鳥居と石塔があるのみで祠もない。六郷用水工事に尽力した小泉次大夫が合祀されているようだ。

六郷用水の取り入れ口を見て水神社前のバス停からバスに乗った。

## 昼食 大庄水産 狛江店

刺身定食を頼み、生ビールを飲んで喉を潤し、楽しくいただいた。

## 経塚古墳

隣はマンションで周りは金網の柵が巡らされ、鍵がかかっている。泉龍寺で鍵を借りてきて開けて中に入った。木々に覆われた中に5世紀後半に造られたと思われる円墳がある。末法思想の流行した平安末期には経典を埋めたという伝承もあり、名前の由来となった。中世には30基ほどの板碑が建ち、骨臓器も出土し、墳墓として二次利用が行われていた。現在板碑10基程が泉龍寺に遺されているようだ

## 駄倉塚(ダクラツカ)古墳

みずほ銀行狛江支店の脇を通り抜けると裏に円墳がある。墳頂に祠のようなものがあり、富士塚のように見えるが火山岩もなくそうではない。南側の裾部は銀行の敷地、北側の半分程が削られ、道路との境目は石垣となっている。築造時期は古墳群中最古の円筒埴輪片の出土により、5世紀中頃と推定されているようだ。無残な姿になっているのが惜しまれる。

2時半ころ見学を終え、解散となり、暑気払いの会場のある上野駅に向かった。

狛江は旧跡時代から縄文時代、古墳時代にかけての足跡が残され、更に奈良時代には泉龍寺が創建され、平安時代には後生安楽を願って経典を埋め、中世には板碑が残されており、連綿と続く歴史がよく残る珍しい町だなと思った。